

2014 年度ウエストナイルウイルス感染症媒介蚊のウイルス保有調査結果について

ウエストナイルウイルス(West Nile Virus ; WNV)は、フラビウイルス科に属しており、蚊-トリ-蚊の感染サイクルで維持されています。しかし、蚊を介して、ヒトを含むほ乳動物にも感染します。ヒトでの発症率は低いものの、発症すると、発熱、頭痛、筋肉痛などの症状を起し、重症例では、麻痺、昏睡、震え、痙攣などの脊髄炎・脳炎症状がみられ、死に至ることもあります。

WNV は 1937 年に初めて、ウガンダのウエストナイル地方で発熱した女性から分離されました。現在では、アフリカ、ヨーロッパ、中東、中央アジア、西アジアなど広い地域に感染が拡大しています。特にアメリカでは大流行が見られ、今年も、9 月 16 日現在、患者数は 725 名を超え、25 名の死者が出ています。

国内では、WNV の侵入は 2005 年にアメリカから帰国した旅行者から検出された 1 例だけですが、イエカ類(アカイエカやコガタアカイエカ等)やヤブカ類(ヒトスジシマカ等)など WNV を媒介する蚊は国内に多数生息しており、ウイルスが国内に侵入すれば、広範囲に広がる危険性があります。

滋賀県では、平成 17 年から WNV の国内への侵入を監視する目的で、これを媒介する可能性のある蚊の発生状況とウイルス保有状況を調査しています。

2014 年の調査では蚊の繁殖が盛んな夏季(7 月～9 月)期間中、毎週、蚊の捕集を実施しました。

その結果、下表のとおりヒトスジシマカが 177 匹ともっとも多く捕集され、以下、コガタアカイエカ 85 匹、アカイエカ 44 匹、オオクロヤブカ 21 匹、トウゴウヤブカ 2 匹およびオオモリハマダラカ 1 匹が採取されました。

捕集された蚊について、種類ごとに WNV の遺伝子検査を行いました。すべての検体から遺伝子は検出されませんでした。

WNV 感染症の予防と感染拡大を防ぐ方法としてもっとも重要なのは媒介昆虫である蚊の発生を抑えることです。蚊は、私たちの周りでも、植木鉢や排水溝などわずかな水があれば発生しますので、水たまりを作らないように環境整備を行うことが大切です。また、蚊は WNV の他にも日本脳炎ウイルス、チクングニアウイルスおよびデングウイルスなど様々な病原体を媒介するためことが知られており、刺されないように注意する必要があります。

表 ウエストナイルウイルス保有蚊の調査に係る蚊の捕集数およびウイルス検査結果

地 点	捕集数(匹)	内 訳		ウエストナイルウイルス 遺伝子検査結果
		数(匹)	種 類	
衛生科学センター (大津市)	330	177	ヒトスジシマカ	不検出
		85	コガタアカイエカ	不検出
		44	アカイエカ	不検出
		21	オオクロヤブカ	不検出
		2	トウゴウヤブカ	不検出
		1	オオモリハマダラカ	不検出

<参考資料>

厚生労働省: http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou18/west_nile_fever.html

国立感染症研究所: <http://www.nih.go.jp/niid/ja/kansennohanashi/221-wnv-intro.html>